

# 2015/16 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

## 市原ロータリークラブ会報



世界へのプレゼントになろう

第 2541 回例会 2016 年 4 月 6 日 (水)

SAA (司会) / 山本会員 会報担当 / 西村会員

事務局 市原市五井中央西 1-22-25 市原商工会議所 2F

例会場 五井グランドホテル

- 点 鐘 市原 RC 会長 万崎英正
- ソング 君が代、奉仕の理想、4つのテスト
- お客様 特定社会保険労務士 村上様  
司法書士 野口様
- 会長挨拶 市原 RC 会長 万崎英正



先ほど別室で行われた 4 月理事会の報告をいたします。

1. 今年度から次年度に繋がる PJ 交換留学性プロジェクトチームのメンバーが決定いたしました。

委員長：篠田会員 委員：上條委員・斎藤委員・長田委員・箕輪会員・小泉会員の 6 名です。PJ.RC 並びに市原中央高校インターアクトクラブとの連携をしっかりとって充実したプロジェクト推進をお願いいたします。なお、このプロジェクトチームは事業が完結いたしましたら解散いたします。

2. 先般 PJ.RC から協力要請がありましたグローバル補助金活用の教育支援プロジェクトですが、PJ において取りやめになりました。理由としては子供の数が減っており、施設の備品も充実しつつあるとのことです。申請がうまくいかなかったようです。それに代わって、これからカンボジアにて学校建設のプロジェクトを計画する予定です。

3. 社会奉仕委員会のさわやか挨拶運動の件  
三宅小委員長とさわやかネットクラブとの打ち合わせが先日行われました。実施内容は年 2 回程度、JR3 駅と牛久駅を拠点に実施することが決まりました。夜遅いのは苦手ですが、朝早くならお手の物。このくらいのことができないようでは CLP なんて出来る訳がない。各地区で皆さんに協力要請があったときは一つ返事でご協力のほどよろしくお願ひいたします。各地でさわやかな挨拶運動を一緒に推進していきましょう。

4. 今日の卓話は白鳥パスタガバナーの「ポリオの状況について」RI 受賞記念卓話です。これまでのポリオに対する姿勢や行動、そして白鳥さんが実際行ってきたこと等々、これらを勉強するにとってもいい機会です。しっかりみんなで「ポリオ」をロータリーを学びましょう。

### ◆◆◆◆◆ 幹 事 報 告 ◆◆◆◆◆

#### ●地区研修・協議会

日時 2016年4月29日(金、祝) 9:00受付開始10:00点鐘  
会場 アパホテル&リゾート東京ベイ幕張ホール  
次年度の為の研修・協議会です。出席宜しくお願い致します。

●小澤会員が人事異動の為退会されます。2年間有難う御座いました。

●PJ・RC から協力要請のあったグローバル補助金活用の教育支援プロジェクトですが、PJ において取りやめになりました。地区の R 財団委員会に予算を確保してもらっていたので、地区には既に中止の報告はしました。子供の数が減っており、施設の備品も充実しつつあるとのことです。申請がうまくいかなかったようです。それに代わって、これからカンボジアにて学校建設のプロジェクトを計画する予定です。



小澤会員より転勤に伴う退会のごあいさつがありました。

### ◆◆◆◆◆ 委 員 会 報 告 ◆◆◆◆◆

長期計画委員会よりテーブルディスカッション【テーマ：社会奉仕について】を終えて

- (1) 地域貢献基金を活用して社会奉仕活動をどのようにすすめるか
- (2) 地域貢献基金活用の社会奉仕活動以外に、どのような社会奉仕活動を行うか

<テーブルでの意見>

①地域貢献基金をなぜ作ったかという経緯をまず知るべき。10年前はごみゼロ運動くらいしかしていなかった。お金も無かった。お金をプールして社会奉仕へ。災害時にも活用できる。

②奉仕活動には金、知恵、汗の3つが必要である。自分たちで奉仕活動を実施する場合、旗振り役(リーダー)が不可欠だが、やる人がいるのかどうか。

- ③地域社会のニーズを知る機会はなかなか無いので公募は仕方ない面もある。見極めが大事。
- ④そもそも資金的な援助中心であるが、NPO 法人などには役に立つはず。
- ⑤ NPO を自分たちで選び、3～5年の支援が必要。それには継続して支援できるように規約も変更する必要がある。
- ⑥例えば青葉台さわやかネットが実施していた挨拶運動。市長も賛成している。3年はクラブでやってはどうか。
- ⑦決議 23-34 ではロータリーが社会奉仕活動をする上での基本的考え方が書かれているが、それに照らし合わせても、現在の地域貢献基金のやり方以外は難しいのでないか。

#### <委員会での意見>

- ①次年度の地域貢献基金の公募については早めに募集をかけていく。
- ②募集要項を社会奉仕委員会にて若干見直す予定。
- ③プロジェクトチームを作って1年かけて奉仕プロジェクトについて検討してはどうか。
- ④やはり多年度での活動も必要。RCを地域へアピールすることも考える必要がある。

## 本日のメインプログラム

### 「ポリオ撲滅の最新情報」

白鳥政孝会員

ポリオ撲滅の概要、現在の状況、今後の課題についてご説明し、また、政府に対する支援の呼びかけを意味する「アドボカシー」についてお話しします。



ポリオの正式名称は「急性灰白髄炎」、一般に「小児まひ」とも呼ばれます。日本では1980年以來、野生ポリオウイルスによる患者は出ておらず、そのため、ポリオの恐ろしさを身近に感じるようなこともなくなりました。しかし、世界の一部の国では現在もポリオ感染が起きており、口からのウイルスが侵入して、5歳未満の子どもの体の自由を奪っています。防ぐこともしやすくなっていますが、いったん侵入しますと永久にその子供は身体不能となり治らない病気になってしまいます。ご覧いただいている写真は、ポリオに感染し、歩くことができなくなったアフガニスタンの女の子です。私たちは、世界中の子どもをポリオから守る必要があります。

1980年代でのポリオ撲滅活動の開始以來、ポリオの感染数は激減しています。活動を始めた当初は、毎年35万人がポリオに感染していましたが、2015年には、わずか74件のみとなりました。これは、

感染数が99.85%以上減少したことを意味しています。

最も重要な成果として、インドでのポリオ無発生期間が3年間を経過し、2014年3月にインドを含む東南アジア地域のポリオフリーが認定されました。インドはかつて、人口の多さと衛生面の問題により、撲滅が最も困難な国であるとされ、実際に2009年には、700件を超える感染が確認されていました。わずか5年での大きな前進です。このことは、徹底したポリオ撲滅活動が効果的な取り組みであることを証明しています。現在、インドで用いられた方法が、感染リスクの高い国で応用されています。

ポリオ撲滅活動では、これまでに目覚ましい進展を遂げてきましたが、ここで活動のペースを落とし、再びポリオの流行を招いてしまった場合、さまざまなリスクを生じることになります。再流行が起きた場合、2022年までに毎年20万人の子どもがポリオに感染する可能性が予測されています。また、現在ポリオフリーに認定されている国にも、再び感染が拡大することになります。さらに、現在までの110億ドルの投入資金が水の泡となってしまいます。この110億ドルのうち、13億ドルはロータリアンからの寄付です。

2016年は、1月1日～3月23日までの時点で、7件の感染が報告されています。そのうち、パキスタンでの感染が80%以上を占めています。パキスタンは、アフガニスタンと並んで、野生ポリオウイルスが残る2カ国のひとつです。これらの常在国では、撲滅活動を困難にする理由があります。それらは、地域的な紛争、地理的に行くことが難しい地域、政情不安、インフラ整備の不足です。パキスタン北西部には、民族グループによって2012年から予防接種が禁止されている地域もあります。この地域では近年、争いがエスカレートしているため、ほかの地域へと移動する人の数が増えています。このことは、予防接種を受けておらず、ポリオに感染している人が、ほかの地域へと移動している可能性があることを意味しています。

ポリオ常在国で感染が起きているあいだは、常にほかの国にウイルスが広がる可能性があります。

他国へのウイルス流入に関連して、昨今のエボラ出血熱の問題にも少し触れておきたいと思います。エボラは、シエラレオネ、ギニア、リベリアといったアフリカ西部の国々を中心として感染が起きています。ナイジェリアにもウイルスが流入しましたが、現時点までに、ウイルスのさらなる拡大は確認されていません。ナイジェリアでは、ポリオ撲滅活動で使用されているリソースが予防方法を徹底しており、そのことがウイルス拡大を食い止めている大きな要因となっています。西アフリカでは、エボラが深刻化している地域を除いてポリオ撲滅活動が続けられており、9月にもポリオの予防接種キャンペーンが実施されました。

次にこれからの課題です。

ポリオ撲滅まであと少しとなった現在、これまでに培ったリソースを最大限に利用して、目下の課題に取り組み、ポリオ常在国での活動に力を入れていく必要があります。活動の一例として、現在、ポリオに詳しいインドの保健員がナイジェリアを訪れて、ポリオ撲滅に関する情報提供を行っています。ほかの疾病の対策では予防接種を行うことができなかった地域でも、ポリオ撲滅活動の保健員は現地を訪れ、子どもたちへの予防接種を行っています。このような地域には、紛争や政情不安によって保健員の命が危険に晒される可能性がある地域も含まれています。ロータリーとそのパートナー団体は、保健員が少しでも安全な環境で予防接種を行うことができるよう、ロータリーや予防接種への信頼を築く活動を行っています。

こちらの写真は、アフガニスタンにあるポリオの予防接種センターです。ロータリー、ユニセフ、世界保健機関が共同で実施しており、保健員が安全に待機できる場所でもあります。また、これは常設の予防接種センターであるため、親はいつでも子どもを連れてくることができます。

ポリオ常在国でロータリーが取り組むべきことは、地域社会で信頼を築き、予防接種に対する誤解を解消することです。このような誤解が

生まれる原因の一つとして、国家政府が取り組むべき多くの問題が未解決となっているのに、ポリオ予防接種が繰り返し行われていることに対する人びとの疑いの気持ちが生まれるということが挙げられます。そのため、信頼を構築し、誤解を解消するには、地域社会におけるほかのニーズにも取り組む必要があります。

ご覧いただいている写真は、ナイジェリアにある保健センターです。保健センターでは、ポリオに限らず、保健上の問題に包括的に取り組んでいます。このような取り組みは、インドで大きな成果を挙げたため、ナイジェリアやパキスタンの一部地域でも実施されています。さらに、ナイジェリアのロータリアンは、予防接種キャンペーンを行う際に、蚊帳や石鹸を提供し、またリハビリ治療を行っているだけでなく、支援があまり行き届いていない地域へのサポートにも力を入れています。このようなプラスの取り組みが大きな成果を挙げています。実際、ナイジェリアでは、「予防接種キャンペーン」という言い方ではなく、「予防接種“プラス”キャンペーン」という表現を用いています。

これは、2014年9月に行われた予防接種“プラス”キャンペーンの様子です。2003年以来、ナイジェリアにおけるポリオ感染の中心地となっているカノ州の首長が、予防接種への誤解と偏見を解消し、ワクチンが安全なものであることを伝えるために、自分にワクチンを投与してみせました。

パキスタンでは、絵本を用いて子どもたちにポリオと予防接種に関する重要な情報を伝えるロータリープロジェクトが実施されています。また、保健員を対象とした研修も行われています。パキスタンで、感染のリスクを高める要因の一つとして、地域社会の情勢不安による大勢の人びとの移住があります。そのため同国のロータリアンとパートナー団体は、移住を余儀なくされる子どもへの予防接種にも力を入れています。このような取り組みはインドでも実施され、その高い効果を実証しました。

ポリオ撲滅活動のさまざまな課題に取り組むには、相当の資金が必要となります。左の棒グラフは、2018年までのポリオ撲滅エンドゲーム戦略計画で必要される資金、55億ドルを示しています。

右の棒グラフは、この55億ドルの資金集めにおける現状を示しています。一番下は、すでに受理された資金で18億ドルとなっています。真ん中の31億ドルは、誓約というかたちで約束されている寄付、あるいはその他の予測される収入を示しています。しかし、これらの資金は、誓約された通りに資金を受けることが重要となります。ロータリーは、このような誓約が確実に実行され、残りの6億ドルの資金不足が補われるよう、各国政府に支援の呼びかけを行っています。

ポリオ撲滅活動の資金不足を補うには、アドボカシー、つまり各国政府への支援の呼びかけで、アドボカシーにおける最近の成功例をご紹介します。これを徹底する必要があります。オーストラリア首相のトニー・アボット氏は、ロータリアンからポリオ撲滅の重要性について話を聞き、政府からの支援を直接お願いされたと話しました。そして、オーストラリア政府は、ポリオ撲滅に1億ドルの支援を行うことを発表しました。この画面には出ておりませんが2014年10月の18日カナダで開催されましたこのようなロータリー研究会での席上で、カナダのハーバー首相にロータリーからポリオ撲滅チャンピオン賞が贈られました。これはハーバー首相に対する長期の撲滅支援に対して敬意を表すために授与されました。このように一国の首相がロータリー研究会に出席しております。

2つのポリオ常在国に加えて、すでにポリオフリーが認定された国でも、ロータリアンによる精力的な支援活動や認識向上キャンペーンが実施されています。ギリシャのロータリアンは、ポリオに対する認識と支援を高めるために、オリンポス山に登って「END POLIO NOW」のメッセージを発信しました。アルゼンチンのロータリアンは、ポリオ撲滅活動の支援を目的とした自転車レース大会を催しました。オーストラリアでは、大勢のロータリアンがシドニーの観光名所ハーバーブリッジに登って、撲滅支援を呼びかけました。

米国では、ミッキーマウスと一緒に、「ポリオ撲滅まであと少し」のポ

ズ写真をソーシャルメディアに掲載し、ポリオ撲滅への認識向上を行っています。そして日本では、多くのクラブや地区がポリオ撲滅のための募金活動を実施しているほか、著名人の方にも、ポリオ撲滅まで「あと少し」であることを伝える認識向上キャンペーンに協力してもらっています。ご覧いただいている画面右上の写真は、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんと、歌手のジュディ・オングさんです。このように、すでにポリオフリーの認定を受けている多くの地域や国々でも、ポリオ撲滅を達成するために、さまざまなキャンペーンや活動が実施されています。

ポリオ撲滅活動に対する認識を高める方法はたくさんあります。一度ポリオを撲滅できれば、その後もずっと、子どもたちをポリオから守ることができます。一つの疾病を撲滅することは、計り知れないほどの大きな恩恵をもたらします。人類が撲滅した最初の疾病である天然痘との闘いを例に取りますと、撲滅までに3,200万ドルが投じられた一方、それが達成されたことにより、定期的な予防接種を行う必要もなくなり、撲滅資金を上回る経済効果を生み出しました。

ポリオとの闘いにおいても、予防接種を継続してきたことにより、これまでに1,000万人がポリオ感染を逃れ、150万人の命が救われたと推定されています。ポリオが撲滅されれば、この数は永久的に増加することになります。また、乳幼児の親たちがポリオの恐怖にさいなまれることもなくなるでしょう。

ポリオ撲滅活動は、世界中のロータリアンによる弛まぬ努力と大きなご支援により、究極的な目標の達成まで「あと少し」のところまでやってきました。撲滅に向けて最後の一押しに全力を注ぐためにも、今後とも皆さまからのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

ご清聴、どうもありがとうございました。

## ◆◆◆◆◆ニコニコ・ソーリー◆◆◆◆◆

**小澤会員** 2年間という短い期間でしたが、市原ロータリークラブに入会させて頂き素晴らしい経験をさせていただきました。温かく受け入れてくださった会員の皆様に心より感謝申し上げます。

**白鳥会員** 貴重な時間を卓話させて頂きありがとうございました。ポリオ撲滅に力を貸してください。

**宮地会員** 入会時に頂いたコブシの木が現在3m位になり花が初めて咲きました。今年は良い年になるような気がします。ありがとうございました。ちなみに角谷年度入会です。

**西村美和子会員** 欠席が多くご迷惑をおかけしています。お蔭さまで昨年末に介護付き有料老人ホーム『ケアレジデンス五井』を開設いたしました。地域の方々に安心、安全を提供できます様頑張ります。

**山本会員** 村上様、野口様本日はご出席ありがとうございました。ご入会をお待ちしています。

**福原会員** 先月の父の通夜、告別式に皆さまの友情に感謝いたします。至らぬ所、数々ありました。この場を借りてソーリーさせていただきます。

**万崎会長・平野幹事** 村上様、野口様ぜひご入会ください。お待ちしております。白鳥会員ありがとうございました。あと0.15%頑張りましょう。

### ■結婚・誕生祝い

結婚 三木会員、津留会員、齋藤（栄）会員、宮地会員  
小川会員  
誕生 深川会員、蔵内会員、篠田会員

■出席報告 前々回確定100.0% 本日出席38名  
欠席6名 本日出席率86.48%

■点 鐘 市原RC会長 万崎英正